

# 医療法人社団健志会 つるみくローバークリニック通信

## Make a wish project!

〇〇家の江の島へGO!

今回は新しい試みを紹介したいと思います。前置き長めです。

当法人は在宅医療、介護サービスを提供し、診療所、訪問診療、訪問看護、訪問介護、ケアマネージャー、デイサービス、老人ホームを運営しています。僕らの目的は、在宅生活を送る患者さんがあるがままの姿で安心して過ごせるように、それが当たり前の生活であるように支えてあげたい思いで日々楽しみ、反省してもがきながら活動しています。

僕は医療や介護サービスを勿論行うのですが、訪問診療で処置や診察だけでは、ふに落ちてない感覚がありました。

僕の訪問診療のやり方は正しいか分かりませんが、通常の診察以外に、時々コーヒー飲んだり、釣った魚を持って行ったり、捌いてみたりなんかして、雰囲気？関係性？のようなものも大事にしています。

このふに落ちてない感覚は、在宅医療や介護のただ処置や診察するだけでは感覚的に満足できず、

何かもっと出来ないのかな～と求め続けても、「患者さんは他人であって、正解がない問いで

終わりが無い」と外の人から良く諭されます。

原体験なのか自己肯定感なのか拙とてもよく分からないですが、この正解のない問いを追い求め続けています。

その正解のない問いへの探究なのか、単純にさせて貰いたいという思いで提案してみたプロジェクトです。

今回、ある癌末期の若い患者さん。治療は出来ず緩和ケアの域に入っている。家に帰ってこれたことは本人はとても幸せとのこと。ただ、当然の如く徐々に薬の量も増え、体力落ちてくる。退院してから一度も部屋を出れず、寝たきりの状態。母親も癌で化学療法中、父親は胆嚢炎で手術を控えていました。本人は両親に介護負担を負わせたくないで、最期の時は病院にお世話になりたいと吐露していました。両親は両親でなんとか支えてあげたい思いは強いけど、何もできない無念さを感じていました。

医療を提供している僕は痛みや息苦しさを取り除くだけでいいの、何かできないかと以前から考えていました。訪問を何回かしているうちに部屋にハワイの置物、海に関する飾りがいっぱいある事に気がつきました。いつものようにお茶しながら、御両親と話すとなんか本人は本当に海が好きで湘南に家を借りてたくらいだと。

じゃあ、湘南に連れて行ってあげたいと考え、法人の中の訪問看護に相談。有り難い事にみんなが是非やろうとなり、訪問看護から御両親に提案。しかし、御両親の体調不良あり、断念しかけた。再度、本人だけでなく御両親のバックアップもすること、この機会を逃したらもうないことなどを僕から改めて話し、急に乗り気になってくれた。御両親から本人に話すと本人が親しいのために断念しかねなく、出発前日まで内緒にしておいた。前日、本人に伝えたところ、大変喜んで指切りまでしてたそう。

事前準備、不安、リスク、急変時の対応などみんなが協力的で幸せを感じながら動いてくれた。出発前の脱水で点滴もやった。

当日を迎え、お父さんと喧嘩？し、本人のモチベーションが急に下がったものの、少しならなんとか了承。お母さんは残念ながら、体調不良で参加できず。二階の部屋から本人を連れ出すのは相当骨が折れた。

運転したことないデカイ車を操作し、休日のドライブは渋滞にハマリ倍以上の時間が掛かった。看護師は常に体調変化を気にしてくれた。

本人よりお父さんが一番はしゃいでいた。本人は長時間の車内で疲れたためか片瀬海岸での滞在時間は15分程度。

看護師さんたちから手書きのコメントの入った当日の写真を集めたアルバムが直ぐに渡されていた。

自分達も楽しんでやってくれている事に感謝。

帰りは行ききの1/3程度の時間で帰宅。

帰宅後はメンバーで振り返りながら反省会。やっではみたものの、何度も自問自答してる問い、自己満足ではなかったのか。本人の気持ちは後で聴こう。お父さんはやっぱり終始楽しそうだった。少しでもこれからくる喪失の悲しみから緩和されればいいかな。看護師にもいっぱい助けてもらった。賛同してくれた事に嬉しく思ってる。

何をやっても満足には到底到達しないし、反省ばかりだが、まだ出来ることはあるはずと在宅医療の可能性を考えている毎日です。

医療法人社団健志会 つるみくローバークリニック 関口 健志

医療法人社団健志会 ふれーず訪問看護ステーション

